

入社1年目から仕事が面白くなるには

この度、株式会社致知出版社様より『入社1年目から仕事面白くなる本』を出版させていただきました。自費出版を合わせると7冊目の本になります。就職活動や入社1年目に特化した本というのは今回が初めてです。今回、どんな想いでこの本を出版したのかを、皆さんにお伝えできればと思います。



こ 30年、若者の「働きたい」「社会で活躍したい」というテンションが少しずつ低下しているように感じます。日本経済が絶好調だったバブル時代は、大人たちは元気で、街にも企業にも勢いがありました。テレビでは華やかなトレンドイドラマが放送され、地方に住んでいる人は、都会で生活する姿に憧れを抱き「社会に出れば、こんな素敵な未来が待っている」と希望を描きやすい時代でした。

バブル崩壊後は不景気が続き、企業の倒産や不祥事、政治不信と、暗いニュースが繰り返されています。若者たちは、大人が元気を失い、社会全体にどこか閉塞感が漂っている空気を感じてきました。そう考えると、働きたくない、社会に出るのが不安と感じる若者が増えるのも、自然なことなのかもしれません。今、景気はどんどん良くなっているようですが、もちろん景気は良いときもあれば悪いときもあります。だからこそ、景気が良いから頑張れる、悪いから頑張れないという生き方では、人生そのものが景気に振り回されてしまいます。

私は、人は未熟な魂としてこの世に生まれ、人生という長い時間をかけて、地球というトレーニングジムで鍛えていくのだと考えています。親や兄弟、友人、職場の間、本や音楽との出会い、そして日々起こる出来事。そのすべてが自分を成長させ、魂を磨いてくれます。嬉しいことも悲しいことも、成功も失敗も、すべてに意味があるので。それらを通して人は気づきを得て、徳を積み、人として成熟していくのではないのでしょうか。

給

料が高いから仕事楽しい、褒められるから頑張れる、美味しいものを食べることが幸せというだけでは、まだまだ未熟だと思えます。本当の面白さは困難や失敗に直面したときに、その壁を乗り越えることにあるのではないのでしょうか。プロスポーツ選手もそうです。調子が悪いときに原因を探り、改善を積み重ねられる人だけが一流になります。

私の20代を振り返ると、思うように成果があがらなかった時期や、会社の経営が悪

化し給料が止まる経験もしました。インターネット上で誹謗中傷を受けたこともあります。決して楽しい出来事ではありませんでしたが、その一つひとつによって魂が磨かれている時間と考えると、仕事面白くなっていきました。給料が出なかったときに暗くなることも、仕事がうまくいかないと落ち込むこともありませんでした。それは、仕事の枠を超えて人生がより豊かになる成長ができていたと実感できていたからだと思います。

最初から面白い仕事などありません。最初から面白い人生ありません。仕事や人生を面白くするのは、出来事ではなく、自分自身のとらえ方なのです。「失敗も壁も悩みも、この経験は必ず未来につながる。今日も魂が磨かれた」と思えるなら、どんな一日にも感謝し、前向きに歩んでいけるはずです。そんな想いを一冊の本に込めました。学生の皆さんはもちろん、社会人の方にもぜひ読んでいただきたいです。人生や仕事との向き合い方を変えるきっかけになれば幸いです。是非一読ください。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつろータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に『夢を見て 夢を叶えて 夢になる』(致知出版社)、『まずは上司を勝たせなさい』(講談社)、『「応援される人」になりなさい』(ワック)、『入社1年目から仕事面白くなる本』(致知出版社)がある。



ブログ



Instagram